

「患者さんの生き様に寄り添った医療を」

「腎臓病総合医療センター」の取り組み

湘南、鎌倉エリアの中核的総合病院として地域医療を支える湘南鎌倉総合病院（鎌倉市岡本、塩野正喜院長）は昨年4月、従来の腎免疫血管内科（腎内）と血液浄化部（透析）、腎移植外科、泌尿器科の4科を統合し「腎臓病総合医療センター」を立ち上げた。「患者さん本位の医療」を目指すこの取り組みを、湘南鎌倉総合病院副院長で同センター長の小林修三医師に聞いた。

高レベルの医療、効果的に提供

「なぜ「腎臓病総合医療センター」を立ち上げたのでしょうか？」

小林センター長（以下、小林）「まず腎臓の病には、様々な種類があります。従来は患者さんが腎臓の病気で病院に来て、腎炎は内科で診るけれども腎臓ガンは泌尿器科が診る、ということがよくありました。」

腎移植、泌尿器科のそれぞれの専門家が協力する体制を整えました。

「現在、力を入れている医療を教えてください。」
小林「最近、患者さんが増加しているのが前立腺の病気で、この治療に力を発揮しているのが「内視鏡手術支援ロボット」（Ⅱ下写真）です。」



©2013 Intuitive Surgical, Inc. All rights reserved.

「また残念ながら病気が進行して、腎臓の働きが失われてしまった場合、血液をきれいにする血液透析（HD）、または腹膜を利用した腹膜透析（PD）、さらには移植という3つの選択肢があります。この場合も、透析は腎臓内科、移植は外科が担当するというケースがありました。」

「しかし患者さんにとって体は一つです。そこでレベルの高い医療をより効率よく、速やかに提供するため、腎臓内科、血液浄化」

「また「予防」も重要なテーマです。私たちは「腎臓病にならない、腎臓病を進めない、腎臓病で命を落とさない」をモットーとして掲げていますが、「ならない」ために最も重要なのが早期発見です。」

「そのために必要なのは、尿の検査を定期的にしても」



湘南鎌倉総合病院 副院長
腎臓病総合医療センター長
小林 修三 医師

「腎臓病にならない、腎臓病を進めない、腎臓病で命を落とさない」を目指したいと語る



一昨年10月に国際的な医療施設評価機構「JCI」の認証を受けるなど、より質の高い医療の提供を目指している

「治療の際に心がけていることは。」
小林「その人の生き様に即した医療を提供したい、ということなんです。血液透析や腹膜透析、移植といった治療は、最後まできちんと見守り続けるための「オープン」です。」

「地域から腎臓病患者なくしたい」
患者さんの生き様を尊重し、最後まで寄り添って診るための医療をモットーとして、これからも取り組んでいきます。」

「今後どのような治療を目指して行きますか？」
小林「私の夢は、この地域から腎臓病が進んで透析になる人をなくすことです。それは私たちだけではできません。地元の開業医の皆さんとパートナーシップを結んで、さらに深めていく。両者が一体となって、地域から透析になるような人をなくしたい。もうそれが十分可能になって来ています。」

「特に膠原病のSLE（全身性エリテマトーデス）は比較的若い女性に多い病気です。早期に発見すれば治療の手だてがあるので、生理異常、微熱、関節痛などの異常がある場合、ぜひ相談してほしいですね。」

「ほかに小児腎臓病への取り組みや腎移植についての展開もより広げていきたい。また我々は免疫やアフレシス（血液浄化療法）の専門家として、ギラン・バレー症候群や重症筋無力症、潰瘍性大腸炎、クローン病、膠原病などの難病治療を行っています。」

JR大船駅から徒歩20分

（同駅より10分間隔で無料シャトルバスを運行しています）

<http://www.shonankamakura.or.jp>



湘南鎌倉総合病院

TEL:0467-46-1717

鎌倉市岡本1370番1